

公共施設の 未来を考える ワークショップ

令和5年・6年度 開催結果概要 (モデル4地域分)



1. 地域の公共施設の未来を考えるワークショップについて

公共施設の使い方や機能のあり方の整理に向けて、様々な立場・年代の市民の皆さまから、地域にある公共施設の未来に向けたより良い使い方等に関する御意見をいただき公共施設に対する幅広い市民ニーズ等を把握するため、「地域の公共施設の未来を考えるワークショップ」を開催しました。

(1) ワークショップの概要

① 実施時期等	令和5（2023）年11月から令和6（2024）年11月にかけて モデル4地域で各5回、合計20回実施
② 参加者	無作為抽出によりモデル4地域にお住まいの満15歳以上の方、及び町内会関係者の方 第1回：99名 第2回：87名 第3回：116名 第4回：80名 第5回：82名 合計：464名 ※参加者数は4地域合計
③ 内容	← 令和5年度 → 令和5年度 令和6年度 → 第1回 「公共施設の未来体験ゲーム（カワタン）」体験会 資産マネジメント第3期実施方針の考え方を理解していただくため、「公共施設の未来体験ゲーム（カワタン）」を実施 第2回 地域の将来像・施設の使い方を考える モデル地域の特徴や課題等を踏まえ、「どんな地域が魅力的か」、「その地域の実現にはどのように施設を使えばよいか」について意見交換を実施 第3回～第4回 身近な地域の将来像や将来に向けて公共施設に必要な機能の検討 第2回で話し合ったモデル地域の将来像等を踏まえ、その実現に向けて起点施設にあったらいいなと思う機能等についての意見交換を実施 第5回 第3回～第4回の検討成果の共有とワークショップ全体の振り返り 班ごとに行っていた検討成果を全体に共有し、トークセッションを通じてワークショップ全体の振り返りを実施

ワークショップの様子



第1回（川崎区）



第2回（幸区）



第3回（高津区）



第4回（麻生区）



第5回（川崎区）

1. 地域の公共施設の未来を考えるワークショップについて

(2) 第1回ワークショップ

○ 内容（4区共通）

資産マネジメント第3期実施方針の考え方を理解していただくため、「公共施設の未来体験ゲーム（カワタン）」を実施しました。

「カワタン」は、施設の老朽化や人口減少を迎える未来で、公共施設をどのように活用していくか、楽しく遊びながら理解を深められる川崎市オリジナルのボードゲームです。

カワサキタウンの10年後、20年後、30年後の社会情勢に合わせたミッションを達成するために、人口（コマ）や経費（コイン）を動かしたり、公共施設で提供するサービスを見直したりしながら、アニマル市民の様々なニーズにあわせて、公共施設をムダなく活用し、魅力的なまちを考えました。

○ 日時・場所

- ・川崎区 令和5年11月19日（日）14:00～17:00 @川崎市役所本庁舎復元棟3階301～303会議室
- ・幸 区 令和5年12月10日（日）14:00～17:00 @幸区役所4階第1～4会議室
- ・高津区 令和5年12月17日（日）14:00～17:00 @高津区役所5階第1・2会議室
- ・麻生区 令和5年11月18日（土）14:00～17:00 @麻生区役所4階第1会議室

○ 参加者数

- ・川崎区 18名 ・幸 区 27名
- ・高津区 27名 ・麻生区 27名

各グループのキャッチフレーズの例

IT化が進み元気なシニアが活躍するまち

多世代がゆるくつながるまち

スポーツでお金もGET！
みんな楽しく元気なカワタン

AI（あい）・AI（エーアイ）で
生涯学習のまち



1. 地域の公共施設の未来を考えるワークショップについて

(3) 第2回ワークショップ

○ 内容（4区共通）

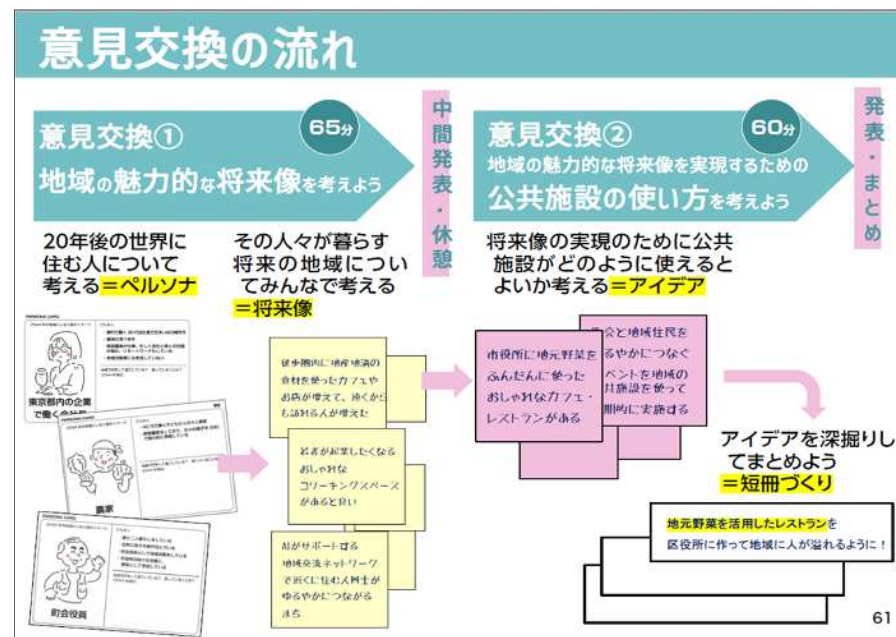
20年後の川崎市に生きる人物（仕事、家族構成、何歳、趣味や日常の行動）のカードを選び、その人物の状況（日常の過ごし方、困り事など）を考えました。その人たちがいきいきと暮らしている地域の将来像を出し合い、魅力的な将来像を実現するための公共施設の使い方を考えました。

○ 日時・場所

- ・ 川崎区 令和6年2月17日（土）14:00～17:00
@川崎市役所本庁舎復元棟3階301～303会議室
- ・ 幸 区 令和6年2月10日（土）14:00～17:00
@幸区役所4階第1～4会議室
- ・ 高津区 令和6年3月2日（土）14:00～17:00
@高津区役所5階第1・2会議室
- ・ 麻生区 令和6年2月4日（日）14:00～17:00
@麻生区役所4階第1会議室

○ 参加者数

- ・ 川崎区 14名 ・ 幸 区 22名 ・ 高津区 21名 ・ 麻生区 30名



※ワークショップ当日の資料から抜粋



川崎区



幸区



高津区



麻生区

1. 地域の公共施設の未来を考えるワークショップについて

(4) 第3回ワークショップ

○ 内容（4区共通）

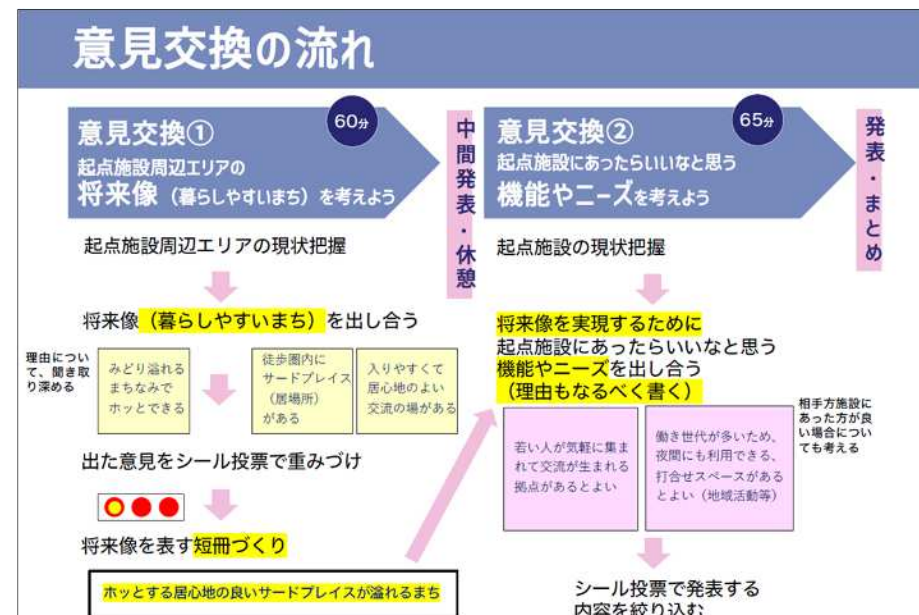
「身近な地域の将来像」や「将来に向けて公共施設に必要な機能」について検討するため、起点施設周辺エリアの「将来像（暮らしやすいまち）」と、それを実現するために「起点施設にあったらいいなと思う機能やニーズ」について意見交換を実施しました。

○ 日時・場所

- ・川崎区 令和6年8月25日（日）14:00～17:00
@川崎市役所本庁舎復元棟3階301～302会議室
- ・幸 区 令和6年8月4日（日）14:00～17:00
@幸区役所4階第1～4会議室
- ・高津区 令和6年7月20日（土）14:00～17:00
@高津区役所5階第1・2会議室
- ・麻生区 令和6年8月24日（土）14:00～17:00
@麻生区役所4階第1会議室

○ 参加者数 ※令和6年5月に無作為抽出により参加者の追加募集を実施

- ・川崎区 34名 ・幸 区 28名 ・高津区 26名 ・麻生区 28名



※ワークショップ当日の資料から抜粋



川崎区



幸区



高津区



麻生区

1. 地域の公共施設の未来を考えるワークショップについて

(5) 第4回ワークショップ

○ 内容（4区共通）

「身近な地域の将来像」や「将来に向けて公共施設に必要な機能」について検討するため、起点施設周辺エリアの「将来像（暮らしやすいまち）」と、それを実現するために「起点施設にあったらいいなと思う機能やニーズ」について意見交換を実施しました。

○ 日時・場所

- ・川崎区 令和6年9月28日（土）14:00～17:00
@川崎市役所本庁舎復元棟3階301～302会議室
- ・幸区 令和6年9月16日（月・祝）14:00～17:00
@幸区役所4階第1～4会議室
- ・高津区 令和6年10月6日（日）14:00～17:00
@高津区役所5階特別会議室
- ・麻生区 令和6年9月29日（日）14:00～17:00
@麻生区役所4階第1会議室

○ 参加者数

・川崎区 21名 ・幸区 21名 ・高津区 14名 ・麻生区 24名



※ワークショップ当日の資料から抜粋



川崎区



幸区



高津区



麻生区

1. 地域の公共施設の未来を考えるワークショップについて

(6) 第5回ワークショップ

○ 内容（4区共通）

第3・4回ワークショップで意見交換した起点施設周辺エリアの「将来像（暮らしやすいまち）」と、それを実現するために「起点施設にあったらいいなと思う機能やニーズ」について、他のエリアの成果を参加者で共有し、感想を出し合いました。

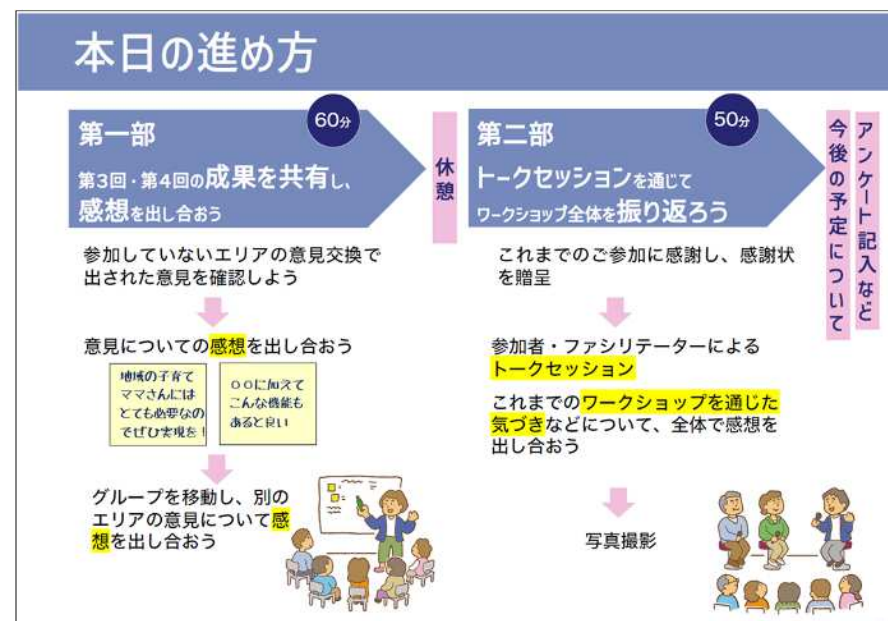
また、トークセッションを通じてこれまでのワークショップの振り返りを参加者全体で行いました。

○ 日時・場所

- ・ 川崎区 令和6年11月10日（日）14:00～17:00
@川崎市役所本庁舎復元棟3階301～302会議室
- ・ 幸 区 令和6年11月24日（日）14:00～17:00
@幸区役所4階第1～4会議室
- ・ 高津区 令和6年11月17日（日）14:00～17:00
@高津区役所5階第1・2会議室
- ・ 麻生区 令和6年11月4日（月・祝）14:00～17:00
@麻生区役所4階第1会議室

○ 参加者数

- ・ 川崎区 18名 ・ 幸 区 19名 ・ 高津区 18名 ・ 麻生区 27名



※ワークショップ当日の資料から抜粋



川崎区



幸区



高津区



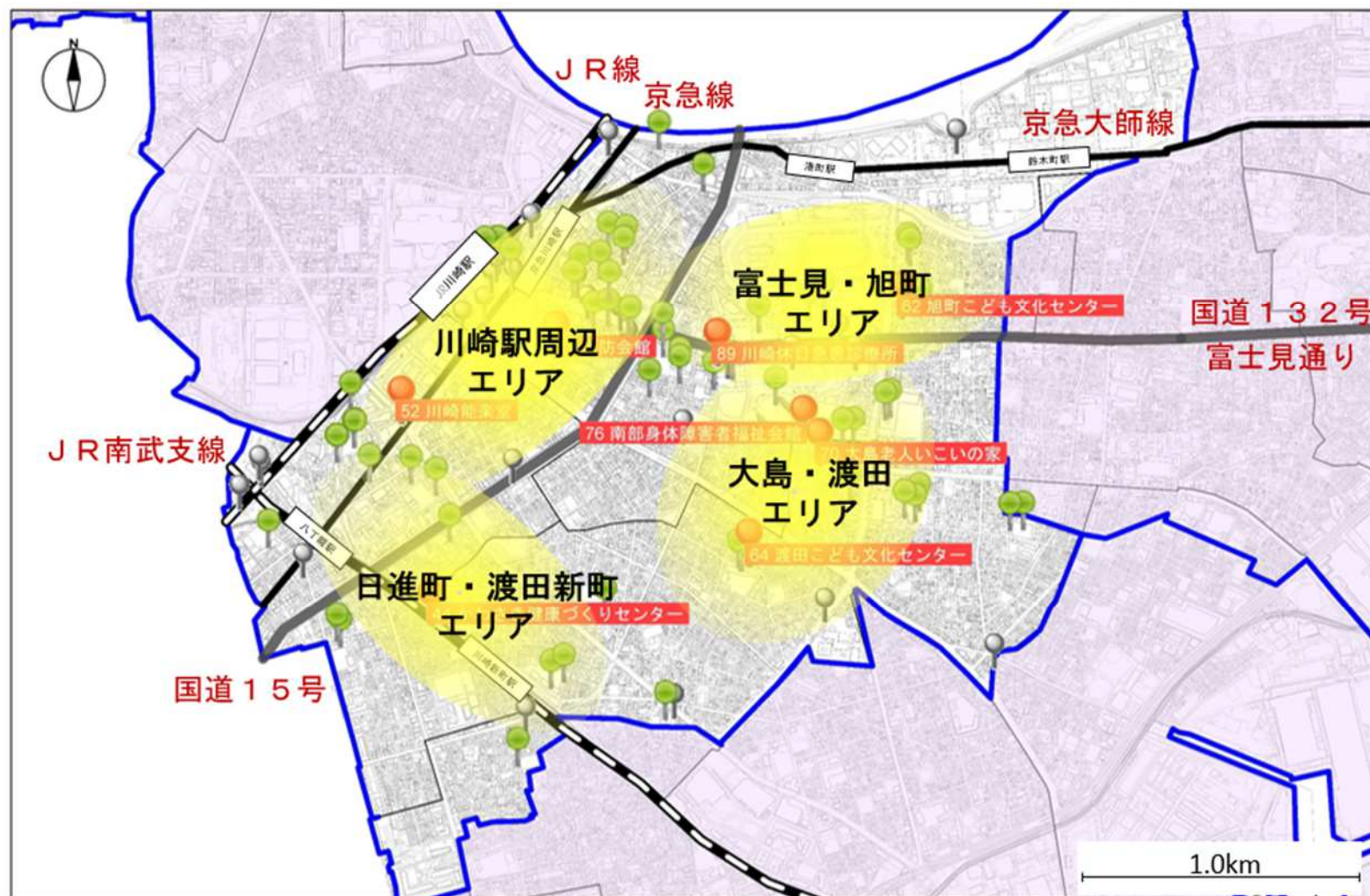
麻生区

2. モデル地域ごとの結果概要

(1) 川崎区モデル地域（川崎・渡田・富士見地域）

① 意見交換のテーマ及びエリア設定

起点施設について周辺地域の魅力的な将来像や、起点施設にあったらいいなと思う機能等について意見交換していただきました。
川崎区のモデル地域では、起点施設周辺の地形、鉄道・バス路線等を踏まえて4つのエリアを設定しました。



2. モデル地域ごとの結果概要

(1) 川崎区モデル地域（川崎・渡田・富士見地域）

② 意見交換のまとめ

エリアごとの意見交換でいただいた**主な意見・アイデア**は以下のとおりです。

赤字：モデル4地域で共通して見えてきた意見・アイデア
青字：各地域で特徴的な意見・アイデア

エリア名	起点施設	エリアの魅力的な将来像	あったらいいなと思う機能
ア 川崎駅周辺	・ 消防会館 ・ 川崎能楽堂	・ 駅前に 憩いの場 や面白い個店が増えて、昼でも夜でも皆が 安心 して遊びに来たくなるまち ・ 住む人も来る人もみんなが気持ち良く 安全安心 に過ごせるまち ・ だれもが ほっとできる 空間のあるまち ・ きれいなにぎわいのあるまち	・ 若い人に情報が入れば家族で行くようになるため、施設の情報を若い人に知ってもらうようにSNSで 情報発信 する ・ 子どもが利用しやすいような自習室、教室、図書館、塾などで使え、 子ども食堂 や 寺子屋 を実施 ・ 災害用備蓄倉庫 として利用する ・ 様々なイベントやスクールなど、 様々な使い方が でき、 川崎カルチャーの拠点 になる ・ 現状では 用途が限定 されておりもったいないため、 機能を他に集約・移転 する ・ 東海道ルート の 活性化 を！
イ 日進町・渡田新町	・ かわさき健康づくりセンター	・ 地域のなかに目的や 老若男女問わずに交流 や 助け合い がうまれる場や環境があるまち ・ 子どもがのびのび遊べる公園があり、 高齢者と子どもの交流 など住民のコミュニケーションが盛んで、公共交通が今より便利で、 住民に防災意識がある ・ 高齢者もおひとりさまも歓迎！ 世代を超えて 人が 集まる 魅力的な場所がある	・ 鏡のある部屋を活用し、若者のダンス（例えばブレイキン）教室を実施するなど、カワサキ文化会館のような子どもや若者の ダンス・スポーツの場 を提供 ・ 予約や登録の仕組みを見直し 、気軽に初めての人も 使いやすく 、個人利用しやすくする ・ 大人も子どもも 利用できる自習室やコワーキングスペースがあるといい ・ ブレイキンやダンスなど、 空き時間を有効活用 できると良い ・ 外国籍 の人も親子で学ぶことができ、 多世代・多国籍 の方が 交流 できる場になるといい
ウ 富士見・旭町	・ 川崎休日急患診療所 ・ 旭町こども文化センター	・ 来街者・外国籍の方・新旧住民 垣根なく交流 できるスクランブル交差点になり、 文化・スポーツ・教育 の中心地へ ・ 地域住民の 交流 の場や行事があり、人と人をつなげるおせっかいチームがある	・ 1Fはカフェ、軽食を提供するなど、地域の方々がおしゃべりできるような 憩いの場 に ・ 平日には子どもに特化して 子育て相談 や小児科診療をする ・ 周りに病院がたくさんあることから、既存の 機能 は周辺の施設に 移転 させ、ここは 国際交流拠点 にする ・ こどもと高齢者 、 外国籍の方 などの 交流 イベントをどんどん仕掛けていく
エ 大島・渡田	・ 大島老人いこいの家 ・ 南部身体障害者福祉会館 ・ 渡田こども文化センター	・ 地域の文化と資源を生かした 交流 が生まれるまち ・ 防災 とスポーツを結びつけて 安心安全 に暮らせる街	・ 対象年齢を緩和 して、こども文化センターといこいの家の 機能を結ぶ ・ こども文化センターといこいの家の 機能を結び子どもと高齢者の交流 を ・ 一般開放されるとイベントを行うなど、施設を知り障害者と対話できるきっかけをつくり、 交流 の機会を増やす ・ 公共施設とスーパーなどの商業施設の 複合化

主な意見・アイデアのキーワードとしては・・・

- ・ 将来像から見えてきた公共施設の機能や使い方等に関すること
 - ⇒ **「多世代交流」**、**「子育て支援の充実」**、**「文化・芸術活動」**、**「利用制限の見直し」**、**「使われていない時間帯の有効活用」**、**「入りづらい」**、**「知られていない」**、**「情報発信・PRが大事」**、**「機能集約や移転なども有効」**、**「安心安全」**、**「防災」**、**「国際交流」**

2. モデル地域ごとの結果概要

(1) 川崎区モデル地域（川崎・渡田・富士見地域）

③ エリアごとのまとめ

【ア 川崎駅周辺エリア】 起点施設：消防会館、川崎能楽堂

エリアの魅力的な将来像

- ・駅前に**憩いの場**や面白い個店が増えて、昼でも夜でも皆が**安心**して遊びに来なくなるまち
- ・住む人も来る人もみんなが気持ち良く**安全安心**に過ごせるまち
- ・だれもが**ほっとできる**空間のあるまち
きれいなにぎわいのあるまち

あったらいいなと思う機能（主な意見）

○消防会館

- ・若い人に情報が入れば家族で行くようになるため、施設の情報を若い人に知ってもらうようにSNSで**情報発信**する
- ・子どもが利用しやすいような自習室、教室、図書館、塾などで使え、**子ども食堂**や**寺子屋**を実施
- ・近隣の相談センターなどの小さな**機能を集約**し、駅前の空いたスペースをフリースペースにして**有効活用**
- ・**災害用備蓄倉庫**として利用する
- ・**様々な機能**の文化センターのような**使い方**ができる

○川崎能楽堂

- ・**災害用備蓄倉庫**として利用する
- ・様々なイベントやスクールなど、**様々な使い方**ができ、**川崎カルチャーの拠点**になる
- ・防音を活かして様々な利用に開放する
- ・現状では**用途が限定**されておりもったいないため、**機能を他に集約・移転**する

○相手方施設

- ・川崎能楽堂の機能はカルッツかわさき（川崎市スポーツ・文化総合センター）に移転する

○特定の施設に限らない意見

- ・**東海道ルート**の**活性化**を！

赤字：モデル4地域で共通して見えてきた意見・アイデア
青字：各地域で特徴的な意見・アイデア

【ワークシート】



1グループ



2グループ



3グループ

【ワークシート】



1グループ



2グループ



3グループ

第5回では、追加で以下のような感想をいただきました。

- ・川崎能楽堂は、周辺の改善と多様な使い方の検討を
- ・施設をもっと知ってもらおう
- ・消防会館はもっと知られるようなサインやPRを
- ・施設をもっと上手に活用できるよう名前や活用方法の改善を

2. モデル地域ごとの結果概要

(1) 川崎区モデル地域（川崎・渡田・富士見地域）

③ エリアごとのまとめ

【イ 日進町・渡田新町エリア】 起点施設：かわさき健康づくりセンター

エリアの魅力的な将来像

- ・地域のなかに目的や**老若男女問わず**に**交流や助け合い**がうまれる場や環境があるまち
- ・子どもがのびのび遊べる公園があり、**高齢者と子どもの交流**など住民のコミュニケーションが盛んで、公共交通が今より便利で、**住民に防災意識がある**
- ・高齢者もおひとりさまも歓迎！**世代を超えて**人が**集まる**魅力的な場所がある

【ワークシート】



4グループ



5グループ



6グループ

あったらいいなと思う機能（主な意見）

○かわさき健康づくりセンター

- ・鏡のある部屋を活用し、若者のダンス（例えばブレイキン）教室を実施するなど、カワサキ文化会館のような子どもや若者の**ダンス・スポーツの場**を提供
- ・**予約や登録の仕組みを見直し**、気軽に初めての人も**使いやすく**、個人利用しやすくする
- ・ネーミングを変えた方が若い人が行きやすい
- ・**大人も子どもも**利用できる自習室やコワーキングスペースがあるといい
- ・ブレイキンやダンスなど、**空き時間を有効活用**できると良い
- ・**外国籍**の人も親子で学ぶことができ、**多世代・多国籍**の方が**交流**できる場になるといい
- ・新しいことに挑戦しやすい仲間づくりができる仕組みがある
- ・現状使っていない部屋がもったいないので**有効活用**する

○相手方施設

- ・小学校の教室や体育館を活用できると良い

○特定の施設に限らない意見

- ・カフェスペースの設置など、運動後にクールダウンできるカフェなどの場所があるといい

【ワークシート】



4グループ



5グループ

第5回では、追加で以下のような感想をいただきました。

- ・かわさき健康づくりセンターは周辺がやや暗くて行きにくく、知らなかったため、せめて案内板の設置を
- ・世代を超えた交流にはイベントなどの運営も重要になる
- ・川崎市全体の広い視野でもっと特徴のある施設を設けても良い



6グループ

赤字：モデル4地域で共通して見えてきた意見・アイデア
青字：各地域で特徴的な意見・アイデア

2. モデル地域ごとの結果概要

(1) 川崎区モデル地域（川崎・渡田・富士見地域）

③ エリアごとのまとめ

【ウ 富士見・旭町エリア】 起点施設：川崎休日急患診療所、旭町こども文化センター

エリアの魅力的な将来像

- ・ **来街者・外国籍の方・新旧住民** 垣根なく**交流**できるスクランブル交差点になり、**文化・スポーツ・教育**の中心地へ
- ・ 地域住民の**交流**の場や行事があり、人と人をつなげるおせっかいチームがある

あったらいいなと思う機能（主な意見）

○川崎休日急患診療所

- ・ 1Fはカフェ、軽食を提供するなど、地域の方々がおしゃべりできるような**憩いの場**に
- ・ **防災備品や備蓄の拠点**
- ・ **大人も子どもも**使える学習スペースを
- ・ 平日に高齢者向けの相談、健康セミナーで使えるようにするなど、**交流**できる施設にする
- ・ 平日には子どもに特化して**子育て相談**や小児科診療をする
- ・ 周りに病院がたくさんあることから、既存の**機能**は周辺の施設に**移転**させ、ここは**国際交流拠点**にする

○旭町こども文化センター

- ・ キッチンを活用して料理教室や夏休みの子どもに給食サービスを提供する
- ・ **こどもと高齢者**、**外国籍の方**などの**交流**イベントをどんどん仕掛けていく
- ・ スペースが広いので、雨天や酷暑でも室内で思い切り体を動かせるスペースを

○相手方施設

- ・ 宮前小学校をこども文化センターのように使う

○特定の施設に限らない意見

- ・ 趣味、生活など意見交換できる**交流**の場がある

赤字：モデル4地域で共通して見えてきた意見・アイデア
青字：各地域で特徴的な意見・アイデア

【ワークシート】



1グループ



2グループ

【ワークシート】



1グループ



2グループ

第5回では、追加で以下のような感想をいただきました。

- ・ 競馬場は入ってみると遊具やBBQ 広場などもありこども連れで気やすいが、周りは危ない印象があるので、周りの道も歩きやすい雰囲気になると良い
- ・ 人と人をつなぐファシリテーター、おせっかいチームがあると良いという視点は大切だと感じた
- ・ 川崎休日急患診療所は観光客や海外の人も受け入れられる場所になると良い

2. モデル地域ごとの結果概要

(1) 川崎区モデル地域（川崎・渡田・富士見地域）

③ エリアごとのまとめ

【工 大島・渡田エリア】 起点施設：大島老人いこいの家、南部身体障害者福祉会館、渡田こども文化センター

赤字：モデル4地域で共通して見えてきた意見・アイデア
青字：各地域で特徴的な意見・アイデア

エリアの魅力的な将来像

- ・地域の文化と資源を生かした**交流**が生まれるまち
- ・**防災**とスポーツを結びつけて**安心安全**に暮らせる街

あったらいいなと思う機能（主な意見）

○大島老人いこいの家

- ・**対象年齢を緩和**して、こども文化センターといこいの家の**機能を結ぶ**
- ・こども文化センターといこいの家の**機能を結び子どもと高齢者の交流**を

○南部身体障害者福祉会館

- ・一般開放されるイベントを行うなど、施設を知り障害者と対話できるきっかけをつくり、**交流**の機会を増やす

○渡田こども文化センター

- ・**対象年齢を緩和**して、こども文化センターといこいの家の**機能を結ぶ**
- ・各施設をめくりたくなるスタンプカードをつくる！

○相手方施設

- ・道路公園センターと連携し、公園の緑化活動（花を植えたりする）を学校の授業で行う

○特定の施設に限らない意見

- ・公共施設とスーパーなどの商業施設の**複合化**

【ワークシート】



3グループ



4グループ

【ワークシート】



3グループ



4グループ

第5回では、追加で以下のような感想をいただきました。

- ・富士見公園の連携に期待しつつ、子どもと高齢者がつながる場になってほしい
- ・老人いこいの家は入りにくい印象なのでふらっと集まれる場所になると良い
- ・「統合」された後の跡地の利用のされ方が気になる

2. モデル地域ごとの結果概要

(1) 川崎区モデル地域（川崎・渡田・富士見地域）

④ 第5回のトークセッションでいただいた参加者からのコメント（一部抜粋）

● トーク1 公共施設を取り巻く現状を踏まえ、気づいたこと・感じたこと

- ・日中の高齢者が多い状況を見ると、公共施設で人が集う場所が改めて必要であると感じている。公共施設で高齢者と子育て中の方との交流などもあると思う。
- ・かわさき健康づくりセンターを今まで知らなかったが、機能を知って、名前と実態（機能）のイメージがかけ離れていると思った。
- ・知らなかった公共施設を知った。使われていない公共施設が、有効活用されると良いと思った。これを機会に興味をもって図書館などの公共施設に行くようになった。

● トーク2 公共施設の今後を考える中で、気づいたこと・感じたこと

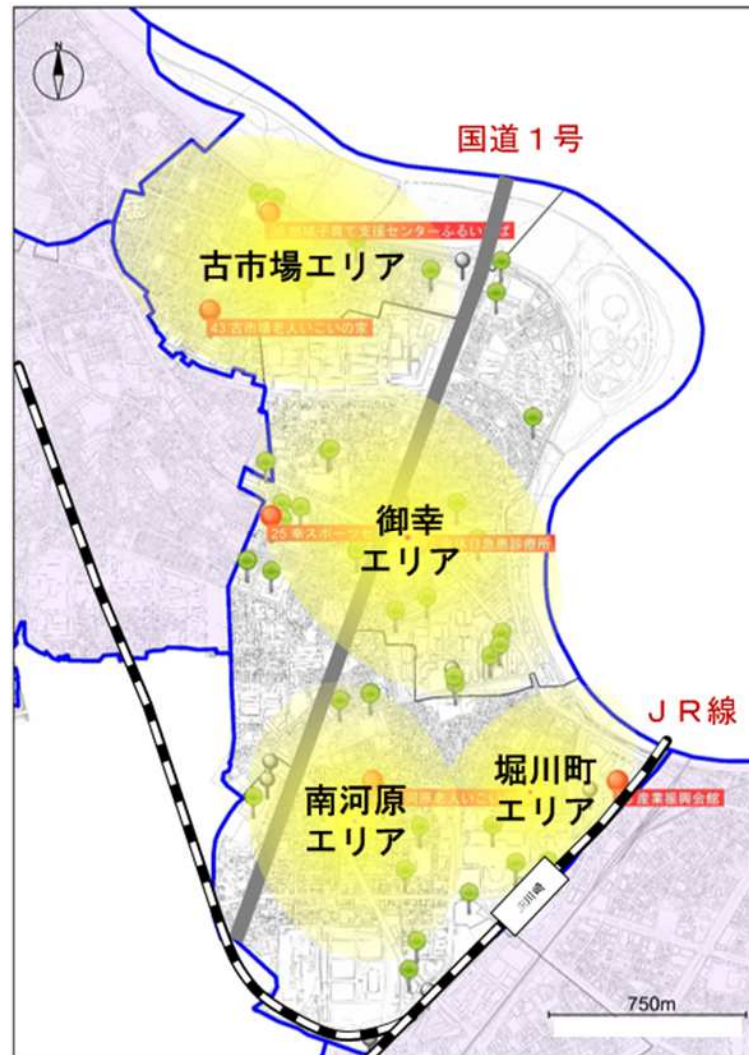
- ・第3回・第4回のワークショップにおいて、箱モノを作るのではなく、今ある大型スーパーに保育園や公共サービスを入れるという使い方のアイデアが印象に残った。今ある民間施設に入るという選択肢があるというアイデアを知れた。
- ・世代間交流があると良いという意見が出たが、施設の機能として多世代が使える、地域の人が使えるという利用者制限の変更だけでなく、それに伴うプログラムなどの運営も必要であり、周知の方法も同時に検討すべきで、どういう人が使うのかを把握してターゲットにあうメディアを選ぶことも大切。
- ・ハブになる人がいることで、多世代交流は広がるのではないかと考えた。仕掛けを作らないと、自走するのは難しいと思う。
- ・施設がどこにあるか、何の施設かを知らないということを改めて感じた。施設の隣に住んでいても知らないことも。例えば、カルッツなどの利用が多い施設に利用が低い施設の告知を置くなど、ホームページなどはあると思うが、もうちょっとPRの手段を検討したら良い。その上で、利用者の少ない施設は機能集約や移転なども考える必要がある。
- ・運営する人・ハブになる人が大切だと思った。夜遅くまでやってほしいという意見があったが、運営してくれる人がいなければ成り立たない。運営する人がいれば安心になるので、より良い公共施設になると思う。

2. モデル地域ごとの結果概要

(2) 幸区モデル地域（平間・御幸・南河原地域）

① 意見交換のテーマ及びエリア設定

起点施設について周辺地域の魅力的な将来像や、起点施設にあったらいいなと思う機能等について意見交換していただきました。
幸区のモデル地域では、起点施設周辺の地形、鉄道・バス路線等を踏まえて4つのエリアを設定しました。



2. モデル地域ごとの結果概要

(2) 幸区モデル地域（平間・御幸・南河原地域）

② 意見交換のまとめ

エリアごとの意見交換でいただいた**主な意見・アイデア**は以下のとおりです。

赤字：モデル4地域で共通して見えてきた意見・アイデア
青字：各地域で特徴的な意見・アイデア

エリア名	起点施設	エリアの魅力的な将来像	あったらいいなと思う機能
ア 堀川町	・産業振興会館	- 図書館や教育施設・勤労者のための学びの場を充実させて、多世代が交流、融合するまち - 一治水による安全確保と川という資源を有効活用 - 気軽に使いやすい、多世代が交流できる仕組み・しかけ等がある 川沿いエリアを、住んで楽しい 働いて楽しい 歩いて楽しいエリアに！	老人も子どもも一緒に楽しみ交流ができるように、別々の施設（保育所、老人いこいの家、こども文化センターなど）を一緒（統合）にする - セミナー等でも使える図書館スペースの設置 - コワーキングスペースなどビジネスなどで使えるような、オシャレさ、便利さ、PRが大事 - ビルのダウンサイジングや会議室をフリーレイアウトにするなど、使い方を見直す 多摩川に近い立地を活かして観光スポットとしても活用 - 夜間も使用でき、カルチャーセンターのように教室やトレーニングなどでも利用できる文化活動の拠点になる
イ 古市場	・地域子育て支援センター ふるいちば ・古市場老人いこいの家	世代を超えたコミュニケーションの充実により、まちの住環境が改善し、魅力が増していくまち - のんびりと永く暮らすまち #孫と暮らす# おだやか - 若い世代が30年後も住みたいと思えるような子育てできる生活しやすいまち	- 様々な人が利用できると顔が見える地域になり、安心・防犯にもつながるため、土日の開放や開館時間が増えると良い 多摩川に近い立地を活かして、世代を限定しないカフェ、軽食、多目的ルーム、リバースポーツなどの多機能な施設にしたい 企業とコラボしながら活用する - 誰でも利用できて本を読めるなど利用制限を見直す 大企業のお祭りなど地域交流の働きかけをする
ウ 御幸	・幸スポーツセンター ・幸休日急患診療所	多世代が交流できる、エリア内で楽しめるまち - 身近で行き来しやすい所に商業施設や娯楽施設、交流の場などのサービスがある	- マルシェ、フリーマーケット、飲食店、広いカフェスペースなど、スポーツをしない人も来やすい場所にし、色々な人が交流できるようにする - 団体利用だけでなく、体力づくりを目的に個人でも気軽に利用しやすい仕組みを導入する 使っていない時に、簡単な運動や食育・栄養サポートなどの健康管理支援や困りごとの解決の場として使う - 公共施設利用の時間延長や、老若男女に関わらず利用可能な場所とするため、ニーズに合った公共施設の運用をする
エ 南河原	・南河原老人いこいの家	- 南河原の特色を生かして朝から夜まで気軽に使える場が沢山あり、人々が共生できるまちになり、皆が永く住める街 多世代と多様な文化の人が交流できる	- 外観が一軒家であり入って良いのか分からない、入りづらいため、どの世代も入りやすい名前に変える 利用時間や利用対象を見直すことで、いつでも誰でも利用できる場所にする 子ども食堂として使えるようにする - 日本語を学んで多様な文化の人が交流できる場があるといい

主な意見・アイデアのキーワードとしては・・・

・将来像から見えてきた公共施設の機能や使い方等に関すること

⇒ **「多世代交流」**、**「子育て支援の充実」**、**「文化・芸術活動」**、**「利用制限の見直し」**、**「使われていない時間帯の有効活用」**
「入りづらい」、**「知られていない」**、**「情報発信・PRが大事」**、**「機能集約や移転なども有効」**、**「企業との連携」**、**「多摩川を活用」**

2. モデル地域ごとの結果概要

(2) 幸区モデル地域（平間・御幸・南河原地域）

③ エリアごとのまとめ

【ア 堀川町エリア】 起点施設：産業振興会館

エリアの魅力的な将来像

- ・図書館や教育施設・勤労者のための学びの場を充実させて、**多世代が交流**、融合するまち
- 治水による安全確保と**川という資源**を有効活用—
- ・気軽に使いやすい、**多世代が交流**できる仕組・しかけ等がある
- ・**川沿いエリア**を、住んで楽しい 働いて楽しい 歩いて楽しいエリアに！

あったらいいなと思う機能（主な意見）

○産業振興会館

- ・**老人も子どもも**一緒に楽しめ**交流**ができるように、別々の施設（保育所、老人いこいの家、こども文化センターなど）を**一緒（統合）**にする
- ・セミナー等でも使える**図書館**スペースの設置
- ・コワーキングスペースなど**ビジネス**などで使えるような、オシャレさ、便利さ、**PRが大事**
- ・ビルのダウンサイジングや会議室をフリーレイアウトにするなど、**使い方を見直す**
- ・身近に感じることができる名前に！
- ・**多摩川**に近い立地を活かして**観光スポット**としても活用
- ・夜間も使用でき、カルチャーセンターのように教室やトレーニングなどでも利用できる**文化活動の拠点**になる
- ・地産地消マルシェ、おしゃれなカフェやレストランがあり、いざという時に避難所として安心できる

○相手方施設

- ・近隣のいこいの家は行きづらく古いので、こども文化センターと併せて分館が産業振興館会館にあると良い

○特定の施設に限らない意見

- ・駐車場が足りないのでソリッドスクエアやラゾーナなどと連携

赤字：モデル4地域で共通して見えてきた意見・アイデア
青字：各地域で特徴的な意見・アイデア

【ワークシート】



1グループ



2グループ



3グループ

【ワークシート】



1グループ



2グループ



3グループ

第5回では、追加で以下のような感想をいただきました。

- ・イベントや企業への貸出しなど、産業振興会館の活用の仕方を広げる
- ・多摩川や周辺施設と連携した活用を
- ・子育て中の親が集まる仕組を
- ・身近に思えるような名前にしてPRを

2. モデル地域ごとの結果概要

(2) 幸区モデル地域（平間・御幸・南河原地域）

③ エリアごとのまとめ

【イ 古市場エリア】 起点施設：地域子育て支援センターふるいちば、古市場老人いこいの家

エリアの魅力的な将来像

- ・ **世代を超えた**コミュニケーションの充実により、まちの住環境が改善し、魅力が増していくまち
- ・ のんびりと永く暮らすまち # **孫と暮らす** # おだやか
- ・ 若い世代が30年後も住みたいと思えるような **子育て** できる生活しやすいまち

あったらいいなと思う機能（主な意見）

○地域子育て支援センターふるいちば

- ・ 様々な人が利用できる顔が見える地域になり、安心・防犯にもつながるため、**土日の開放や開館時間が増える** と良い
- ・ **多摩川** に近い立地を活かして、**世代を限定しない** カフェ、軽食、多目的ルーム、リバースポーツなどの **多機能** な施設にしたい
- ・ **企業とコラボ** しながら活用する
- ・ 誰でも利用できて本を読めるなど **利用制限を見直す**

○古市場老人いこいの家

- ・ 日曜日も開放されるなど、**利用曜日や開館時間が増える** と良い
- ・ 誰でも文化センターのように使えるようにし、生鮮食品や日用品の買い物が出来たり、物品販売やカフェを設置するなど、**多世代** のいこいの場になるといい
- ・ 健康相談やトレーニングができるといい

○相手方施設

- ・ 多摩川管理事務所を立ち寄れる場所にする

○特定の施設に限らない意見

- ・ 施設の入口に利用案内などを掲示して **用途を明確** にする
- ・ **大企業** のお祭りなど地域交流の働きかけをする
- ・ **シニアと子ども** が物理的に近い場所で共存できると良い

赤字：モデル4地域で共通して見えてきた意見・アイデア
青字：各地域で特徴的な意見・アイデア

【ワークシート】



4 グループ



5 グループ



6 グループ

【ワークシート】



4 グループ



5 グループ



6 グループ

第5回では、追加で以下のような感想をいただきました。

- ・ 高齢者と子どもが一緒に使えるようになると良い
- ・ 公共施設に入りやすくするための工夫が必要である
- ・ 公共施設を宿泊施設として上手く活用する

2. モデル地域ごとの結果概要

(2) 幸区モデル地域（平間・御幸・南河原地域）

③ エリアごとのまとめ

【ウ 御幸エリア】 起点施設：幸スポーツセンター、幸休日急患診療所

エリアの魅力的な将来像

- ・ **多世代が交流**できる、エリア内で楽しめるまち
- ・ 身近で行き来しやすい所に商業施設や娯楽施設、**交流**の場などのサービスがある

あったらいいなと思う機能（主な意見）

○幸スポーツセンター

- ・ マルシェ、フリーマーケット、飲食店、広いカフェスペースなど、スポーツをしない人も来やすい場所にし、**色々な人が交流**できるようにする
- ・ 区民プールを設置して、区内小学生の水泳の授業に活用
- ・ 団体利用だけではなく、体力づくりを目的に個人でも**気軽に利用しやすい仕組み**を導入する
- ・ プロ選手から指導を受ける機会をつくる

○幸休日急患診療所

- ・ **使っていない時**に、簡単な運動や食育・栄養サポートなどの健康管理支援や困りごとの解決の場として使う
- ・ 医療専門機能に特化し、夜間や平日も診療できるようになるといい

○相手方施設

- ・ 幸休日急患診療所を区役所のエリアにある福祉パルさいわいなどに**機能移転**する

○特定の施設に限らない意見

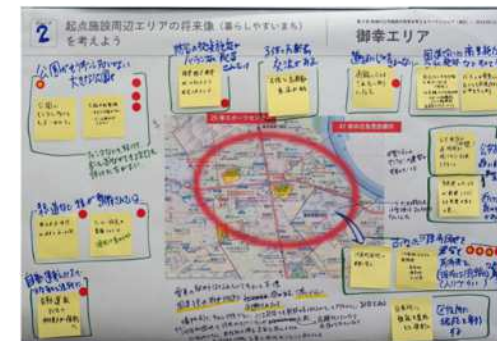
- ・ 公共施設利用の**時間延長**や、**老若男女に関わらず**利用可能な場所とするため、ニーズに合った公共施設の**運用**をする

赤字：モデル4地域で共通して見えてきた意見・アイデア
青字：各地域で特徴的な意見・アイデア

【ワークシート】



1グループ



2グループ

【ワークシート】



1グループ



2グループ

第5回では、追加で以下のような感想をいただきました。

- ・ 幸スポーツセンターは民間のスポーツジムとの違いを出していく
- ・ カフェや飲食店にもスポーツセンターらしい特色を入れる
- ・ 体操教室や専門的な相談ができるように
- ・ 屋内プールを作って近隣の小学生が使えるように活用を

2. モデル地域ごとの結果概要

(2) 幸区モデル地域（平間・御幸・南河原地域）

③ エリアごとのまとめ

【エ 南河原エリア】 起点施設：南河原老人いこいの家

エリアの魅力ある将来像

- ・南河原の特色を生かして朝から夜まで気軽に使える場が沢山あり、**人々が共生できるまち**になり、皆が長く住める街
- ・**多世代**と多様な文化の人が**交流**できる

あったらいいなと思う機能（主な意見）

○南河原老人いこいの家

- ・**子どもも**ふらっと立ち寄れるよう、建てかえる際にはバリアフリーに！インクルーシブデザインを取り入れて
- ・外観が一軒家であり**入って良いのか分からない、入りづらい**ため、どの世代も入りやすい名前に変える
- ・**利用時間や利用対象を見直す**ことで、**いつでも誰でも**利用できる場所にする
- ・予約なしで気軽に利用できる場所に！
- ・**子ども食堂**として使えるようにする
- ・1階に子どもも遊べるスペースを

○相手方施設

- ・**高齢者と子ども**の**交流**が生まれるため、公園内に立地する南河原こども文化センターの隣に移転する

○特定の施設に限らない意見

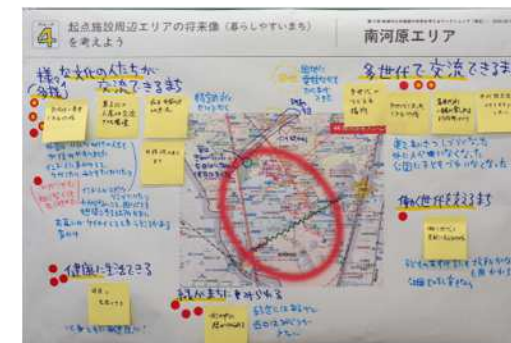
- ・日本語を学んで多様な文化の人が**交流**できる場があるといい

赤字：モデル4地域で共通して見えてきた意見・アイデア
青字：各地域で特徴的な意見・アイデア

【ワークシート】



3グループ



4グループ

【ワークシート】



3グループ



4グループ

第5回では、追加で以下のような感想をいただきました。

- ・SDGs やフェアトレードのお店があることも発信する
- ・南河原老人いこいの家にランチサービスがあると良い

2. モデル地域ごとの結果概要

(2) 幸区モデル地域（平間・御幸・南河原地域）

④ 第5回のトークセッションでいただいた参加者からのコメント（一部抜粋）

● トーク1 公共施設を取り巻く現状を踏まえ、気づいたこと・感じたこと

- ・今まで気にしていなかった老人いこいの家やこども文化センターの掲示板を見るなど、施設を立ち止まって見たりするようになった。
- ・あまり公共施設を知らない。産業振興会館が近いので、何度か使ったことがあり、それほどでは無いと感じていたが、話を聞くと老朽化していることが分かった。公共施設の数は多すぎるようにも感じた。人口が減る中で何とかしなくてはならないんだろうなと思った。
- ・ワークショップに参加して、地域の掲示板などに目を通すようになった。子供と一緒に参加できるイベントがあることも知れて、スポーツセンターのイベントにも参加した。意識が変わり、情報を知ることが出来るようになった。
- ・ワークショップに参加して一番変化したのが、掲示板を見るようになったこと。課題だと思うのは、紙の媒体がメインであるようだが、自分は普段は携帯などで情報を得ることが多いので、もっとデジタル媒体で発信してもらおう方が良いと思った。

● トーク2 公共施設の今後を考える中で、気づいたこと・感じたこと

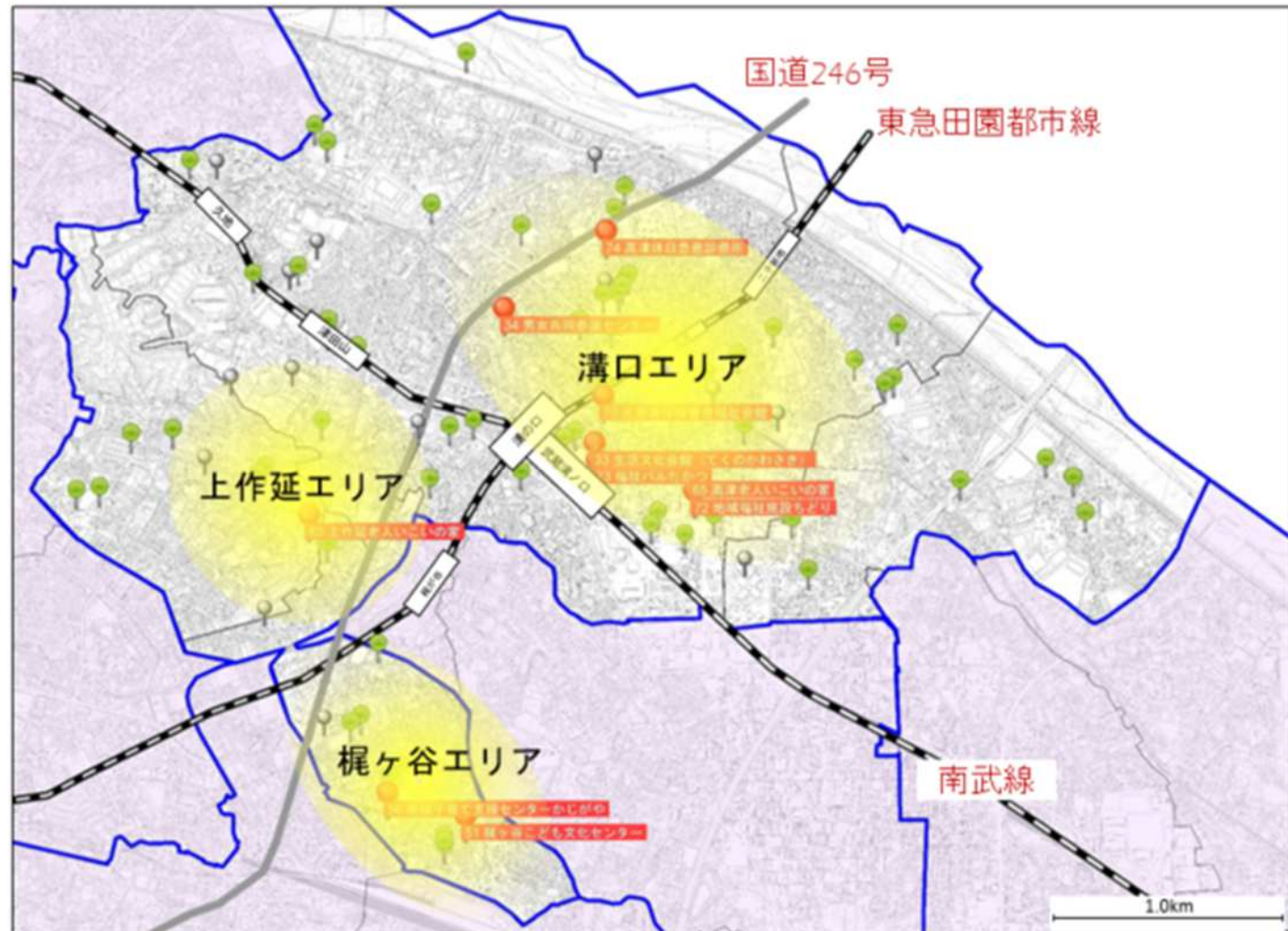
- ・スポーツセンターの建替の時にプールを作って近隣の小学生が授業を受けられるようにする、という案は良いと思った。民間と連携することでも、先生方の負担も減ると思う。
- ・公共施設の可能性について、これだけ多くの方が使い方を知らなかったということは、公共施設を必要とする機会が無かったのだと分かった。使われていない公共施設があることは可能性しか無いと思った。
- ・公共施設の可能性について、施設のネーミングを変えることで新たに生まれ変わるという意見があった。川崎の勢いがある感じで良い名前がつくとそれが起爆剤になるかもしれないと思った。
- ・高齢者目線で老人福祉センターやいこいの家について考えた。知られていないことに課題を感じた。かわさき福寿手帳交付と一緒に施設の案内があるなど、お知らせいただきたいと思った。
- ・みんなが使えるように建替や名前の変更などをすると将来は良いと思うが、すぐには出来ないと思う。例えば老人福祉センターなど、事務的な利用をしている1階部分について利用者に開放するなど、みんなが使えるようにできるところから始めることが大事。

2. モデル地域ごとの結果概要

(3) 高津区モデル地域（西高津・高津・東高津地域）

① 意見交換のテーマ及びエリア設定

起点施設について周辺地域の魅力的な将来像や、起点施設にあったらいいなと思う機能等について意見交換していただきました。
高津区のモデル地域では、起点施設周辺の地形、鉄道・バス路線等を踏まえて3つのエリアを設定しました。



2. モデル地域ごとの結果概要

(3) 高津区モデル地域（西高津・高津・東高津地域）

② 意見交換のまとめ

エリアごとの意見交換でいただいた**主な意見・アイデア**は以下のとおりです。

赤字：モデル4地域で共通して見えてきた意見・アイデア
青字：各地域で特徴的な意見・アイデア

エリア名	起点施設	エリアの魅力的な将来像	あったらいいなと思う機能
ア 上作延	・上作延老人いこいの家	・歩いて楽しめる街 # 起点施設と地域とのつながり # 集える # 歩道広く ・ 子どもと高齢者 がイキイキ暮らせるまち	・ こども食堂 + 料理教室で 仕事と学びの機会 を ・ 地域で採れた野菜 を集めて販売したり、畑で子どもたちと野菜を育ててコミュニケーションを図る ・ 多世代 が利用できるように、健康づくりができたり、地域の人が 集える カフェがあったり、貸しスペースで個人の展示などができるといい ・ 災害拠点の小学校からも距離があることから、地震、台風等の 防災拠点 としての機能があると良い ・ 合築の上作延こども文化センターにて、お年寄りが先生となって子供達が学べる 寺子屋 を主催する ・ オープンカフェなど施設の外側に 誰でも集える 場をつくり 発信の場 にする
イ 梶ヶ谷	・ 梶ヶ谷こども文化センター ・ 地域子育て支援センター かじがや	・ 坂があっても、 多世代 が集まり、 子育て しやすく、子どもが 自然 にふれあえる	・ 施設の名前を変えて、 子ども以外の世代も誰でも使えるよう にする ・ 駅から遠い場所のため、学校の時間など、 日中に使っていないスペース をテレワークスペースして活用する ・ 防災施設として 災害用の備蓄品 をストックする ・ JAと連携 して野菜等を販売できる場所に ・ 子育て に限らず、健康・行政・法律などよろず相談や 交流 ができる ・ タイムシェア で子育て世代は平日、シニア世代は休日使える場所にする
ウ 溝口	・ 男女共同参画センター（すくらむ21） ・ 北部身体障害者福祉会館 ・ 高津休日急患診療所	・ 他地域からも来たくなるような場がある、 文化的な財産 を活かしたまち ・ 多世代が交流 できルールが守られ地域イベントが充実、人にやさしく、自転車ルールが守られ 災害時も避難しやすい 、安全に歩けるインフラが整備されたまち	・ 二ヶ領用水などの緑道 や、 大山街道の歴史と文化 を活用して 人が集まる機能 がある ・ 市民館と 機能 が似ているため 統合 してはどうか ・ 二ヶ領用水の情報発信拠点 とし、小学校などのプログラムと連携 ・ 機能を他の施設の空いているところに移転 ・ 時間外の 使っていない時間帯 をテレワーク出来るワークスペースに ・ 公共施設の大半は 避難所 として使えるようになると良い
エ 溝口	・ 生活文化会館（てくのかわさき） ・ 福祉パルたかつ ・ 高津老人いこいの家 ・ 地域福祉施設ちどり	・ 幅広い年代 が好きな過ごし方ができて、その場所に安全に移動ができるまち	・ 高津図書館の分館、 ダンスや音楽 のスタジオなど、誰でも利用できる 文化拠点 にする ・ 子どもが仕事体験（職人との交流等） できる場に ・ 学校と連携して、授業などで 子ども が訪れて 技術にふれるチャンス にする ・ 保育や勉強スペースを増やすなど、 多世代交流 もできる、中高生の居場所を増やす

主な意見・アイデアのキーワードとしては・・・

・ 将来像から見えてきた公共施設の機能や使い方等に関すること

⇒ **「多世代交流」**、**「子育て支援の充実」**、**「文化・芸術活動」**、**「利用制限の見直し」**、**「使われていない時間帯の有効活用」**、**「入りづらい」**、**「知られていない」**、**「情報発信・PRが大事」**、**「機能集約や移転なども有効」**、**「防災」**、**「農や自然」**

2. モデル地域ごとの結果概要

(3) 高津区モデル地域（西高津・高津・東高津地域）

③ エリアごとのまとめ

赤字：モデル4地域で共通して見えてきた意見・アイデア
青字：各地域で特徴的な意見・アイデア

【ア 上作延エリア】 起点施設：上作延老人いこいの家

エリアの魅力ある将来像

- ・坂道（お店があったり、景色を楽しめる！）を楽しむ 健康寿命UP!
- ・歩いても楽しめる街
#起点施設と地域とのつながり# **集える** #歩道広く
- ・**子どもと高齢者**がイキイキ暮らせるまち

あったらいいなと思う機能（主な意見）

○上作延老人いこいの家

- ・**こども食堂** + 料理教室で**仕事と学びの機会**を
- ・合築しているこども文化センターとの連携
- ・**地域で採れた野菜**を集めて販売したり、畑で子どもたちと野菜を育ててコミュニケーションを図る
- ・ニーズにあわせて和室を変更する
- ・**多世代**が利用できるように、健康づくりができたり、地域の人**集える**カフェがあったり、貸しスペースで個人の展示などができるといい
- ・災害拠点の小学校からも距離があることから、地震、台風等の**防災拠点**としての機能があると良い

○相手方施設

- ・合築の上作延こども文化センターにて、お年寄りが先生となって子供達が学べる**寺子屋**を主催する

○特定の施設に限らない意見

- ・「上作延レストラン」で**地元農産物**を使った名物料理の提供など、行きたくなる・帰って来たい場所をつくる
- ・オープンカフェなど施設の外側に**誰でも集える**場をつくり**発信の場**にする
- ・日替わりで野菜や手作り品、ワークショップなどができるスペース

【ワークシート】



1グループ



2グループ



3グループ

【ワークシート】



1グループ



2グループ



3グループ

第5回では、追加で以下のような感想をいただきました。

- ・働く人向けに仕事ができる環境があると良い
- ・夜防災キャンプのアイデアいいね!
- ・食育などの体験型で農家とコラボ、地元農家でとれたレストランももっと増えると良い

2. モデル地域ごとの結果概要

(3) 高津区モデル地域（西高津・高津・東高津地域）

③ エリアごとのまとめ

【イ 梶ヶ谷エリア】 起点施設：梶ヶ谷こども文化センター、地域子育て支援センターかじがや

エリアの魅力ある将来像

- ・高齢者や障がい者にとって利便性があり移動しやすいまちに
- ・坂があっても、**多世代**が集まり、**子育て**しやすく、子どもが**自然**にふれあえる
- ・坂が多くて移動が大変なので、家以外の近所の場所でもテレワークやゆったりとした過ごし方、アクティブな過ごし方、買い物など、快適に過ごせるまち

あったらいいなと思う機能（主な意見）

○梶ヶ谷こども文化センター

- ・子どもの数が減るので高齢者向けの施設として再編
- ・施設の名前を変えて、**子ども以外の世代も誰でも使える**ようにする
- ・駅から遠い場所のため、学校の時間など、**日中に使っていないスペース**をテレワークスペースとして活用する
- ・防災施設として**災害用の備蓄品**をストックする

○地域子育て支援センターかじがや

- ・**JAと連携**して野菜等を販売できる場所に
- ・**子育て**に限らず、健康・行政・法律などよろず相談や**交流**ができる
- ・カフェなどのスペースがあり、**子育て世代**が子どもを専任スタッフに預けて大人が休憩できる
- ・**タイムシェア**で子育て世代は平日、シニア世代は休日使える場所にする

○相手方施設

- ・梶ヶ谷小学校のグラウンドを使って、子育て支援センターの運動会を行う

○特定の施設に限らない意見

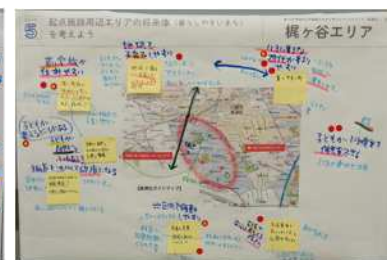
- ・**子どもから高齢者まで**ゆっくりできる、**みどり**や水のあるエリアに
- ・シェアサイクルポートがあると良い
- ・近所の子どもたちがプランターで簡単に**農業体験**をして**交流**

赤字：モデル4地域で共通して見えてきた意見・アイデア
青字：各地域で特徴的な意見・アイデア

【ワークシート】



4グループ



5グループ



6グループ

【ワークシート】



4グループ



5グループ

第5回では、追加で以下のような感想をいただきました。

- ・梶ヶ谷の中だけでなく広域的な視点で公共施設の利用を考えるとよい
- ・スポーツ教室を開催していくと良い
- ・利用を子どもに限定せず、ネーミングも工夫して誰でも入れるように



6グループ

2. モデル地域ごとの結果概要

(3) 高津区モデル地域（西高津・高津・東高津地域）

③ エリアごとのまとめ

赤字：モデル4地域で共通して見えてきた意見・アイデア
青字：各地域で特徴的な意見・アイデア

【ウ 溝口エリア】 起点施設：男女共同参画センター（すくらむ21）、北部身体障害者福祉会館、高津休日急患診療所

エリアの魅力的な将来像

- ・他地域からも来たくなるような場がある、**文化的な財産**を活かしたまち
- ・**多世代が交流**できルールが守られ地域イベントが充実、人にやさしく、自転車ルールが守られ**災害時も避難しやすい**、安全に歩けるインフラが整備されたまち

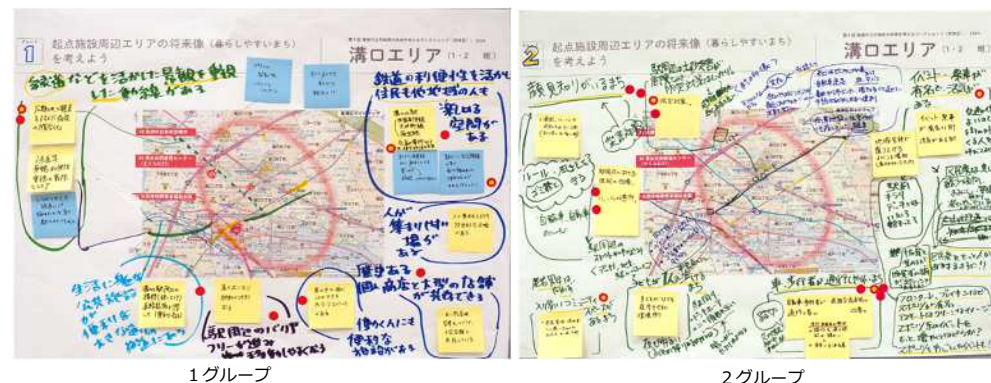
あったらいいなと思う機能（主な意見）

- 男女共同参画センター（すくらむ21）
 - ・**二ヶ領用水などの緑道**や、**大山街道の歴史と文化**を活用して**人が集まる機能**がある
 - ・市民館と**機能**が似ているため**統合**してはどうか
- 北部身体障害者福祉会館
 - ・**二ヶ領用水の情報発信拠点**とし、小学校などのプログラムと連携
- 高津休日急患診療所
 - ・**機能を他の施設の空いているところに移転**
 - ・時間外の**使っていない時間帯**をテレワーク出来るワークスペースに
- 相手方施設
 - ・高津休日急患診療所については、近くの西高津中学校、中央支援学校、高津小学校と連携できないか（休日開く休日急患診療所と平日主に使われる学校でマッチング）

○特定の施設に限らない意見

- ・公共施設の大半は**避難所**として使えるようになると良い
- ・蔵など未活用を場をギャラリーやカフェなどに利用する

【ワークシート】



【ワークシート】



第5回では、追加で以下のような感想をいただきました。

- ・男女共同参画センターは名前と機能にミスマッチがあるため変更した方が良い
- ・男女共同参画センターには診療所機能やスタートアップ機能も
- ・機能が分かれば施設を利用しやすくなるため、機能が分かる名前を！

2. モデル地域ごとの結果概要

(3) 高津区モデル地域（西高津・高津・東高津地域）

③ エリアごとのまとめ

赤字：モデル4地域で共通して見えてきた意見・アイデア
青字：各地域で特徴的な意見・アイデア

【工 溝口エリア】 起点施設：生活文化会館（てくのかわさき）、福祉パルたかつ、高津老人いこいの家、地域福祉施設ちどり

エリアの魅力的な将来像

- ・住んでる人にも住んでない人にも魅力的なカラフルなまち
- ・**幅広い年代**が好きな過ごし方ができて、その場所に安全に移動ができるまち

あったらいいなと思う機能（主な意見）

○生活文化会館（てくのかわさき）

- ・高津図書館の分館、**ダンスや音楽**のスタジオなど、誰でも利用できる**文化拠点**にする
- ・**子どもが仕事体験（職人との交流等）**できる場に
- ・学校と連携して、授業などで**子ども**が訪れて**技術にふれるチャンス**にする

○福祉パルたかつ

- ・**子ども**を預けられたり遊べる場にする

○高津老人いこいの家

- ・保育や勉強スペースを増やすなど、**多世代交流**もできる、中高生の居場所を増やす

○地域福祉施設ちどり

- ・民間との連携により、今風の銭湯やジムとして使えるように

○相手方施設

- ・生活文化会館（てくのかわさき）は二子・高津こども文化センターと連携して**子どもの仕事体験**を行う

○特定の施設に限らない意見

- ・利用したくなるような建物名に変える

【ワークシート】



3グループ

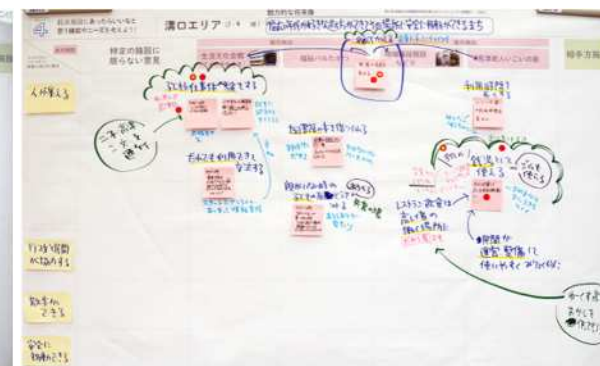


4グループ

【ワークシート】



3グループ



4グループ

第5回では、追加で以下のような感想をいただきました。

- ・生活文化会館は駅近の立地を活かして利用しやすいように使い方を改善してほしい
- ・施設名称を現代に合っていて、使い方が分かる名称に変更した方が良いと思う
- ・駅近の場所に図書館などの文化拠点があるといい

2. モデル地域ごとの結果概要

(3) 高津区モデル地域（西高津・高津・東高津地域）

④ 第5回のトークセッションでいただいた参加者からのコメント（一部抜粋）

● トーク1 公共施設を取り巻く現状を踏まえ、気づいたこと・感じたこと

- ・知らない施設も多かった。もっと施設を周知してもらおうと思った。
- ・このワークショップで建物が古くなり利用が減っているということが分かった。スポーツセンターは人気でなかなか予約が取れないなどミスマッチが起きていると思った。
- ・せっかく建屋と土地があるので、有効利用してほしい。溝口はポテンシャルが高いと思うので、例えば映画など魅力があるまちにして税収を上げたらよいと思った。
- ・皆さんの意見を聞いて「こういう感じだったのだな、高津区は」と思うことが多かった。自分は10年ぐらいしか住んでいないので、公共施設と呼ばれるものがこんなにたくさんあると知らなかった。カワタンのゲームはとてもよかった。
- ・公共施設がよりよく変わるとよいと思った。自分に関係ないところだと思わないで使っていきたいと思う。

● トーク2 公共施設の今後を考える中で、気づいたこと・感じたこと

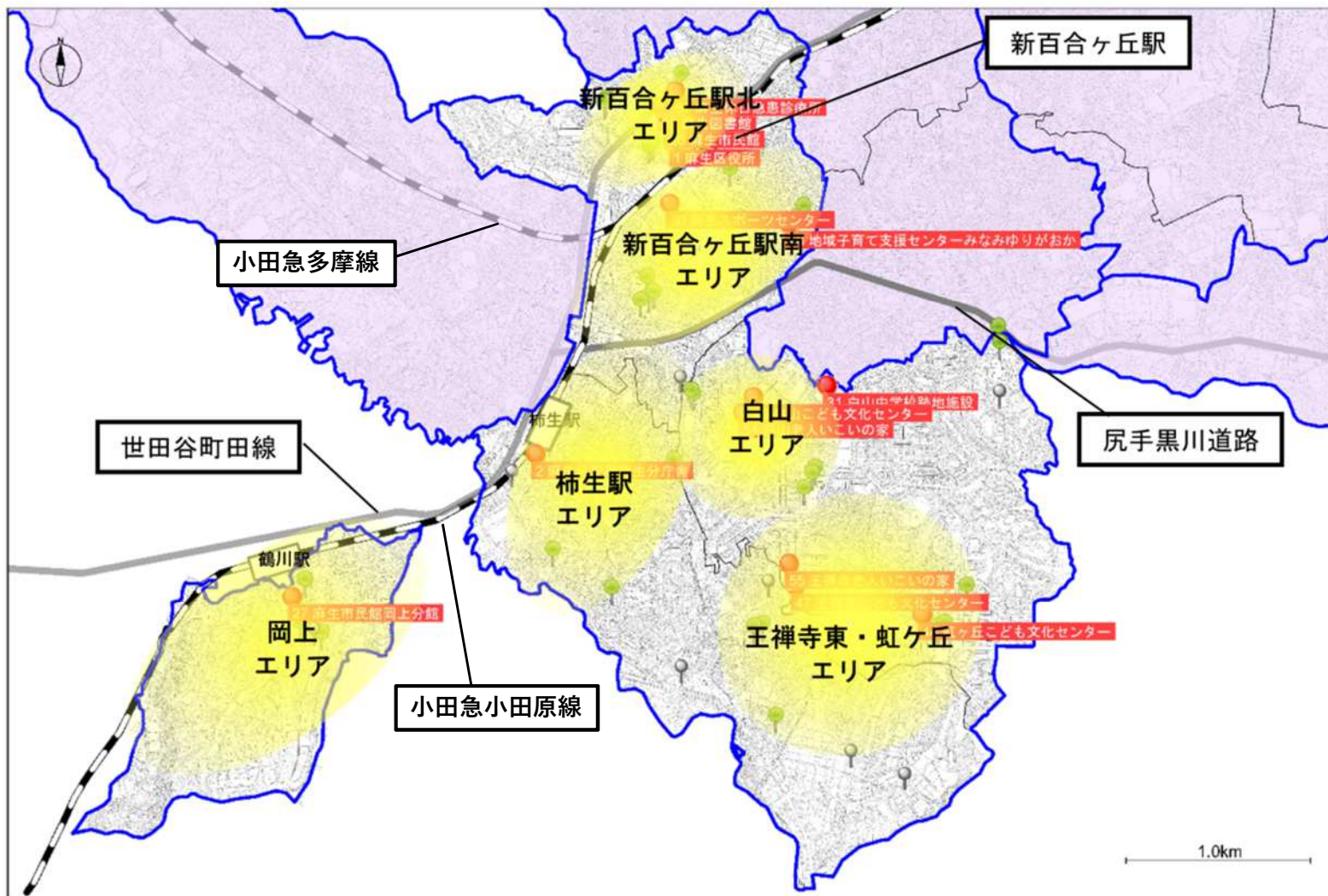
- ・カフェがあるなど役所に気楽に入れるようになるとうい意見があった。ニーズに合わせて変化させていく必要もある。
- ・生まれてからずっと高津に住んでいるが、農家があることを意識していなかった。都内などにある地元農家が作った野菜を使うカフェなどがあるとよいと思った。また、子育て世代には「おしゃれ」「離乳食がある」など、美容を気にする層には「おしゃれと健康」などのアプローチでいろいろな可能性がある。
- ・ブランディングという言葉が出ていたが、溝口のブランディングは「農家・畑がある」、「高いところでは水害がない」など、アピールできるところがたくさんある。
- ・子ども食堂で使ったり、マルシェを開いたりしているという地域もあると聞いて良いと思った。
- ・キッズニアなど、他の地域からも人を呼べるのではないかというアイデアがあった。農業、畑があるエリアで農業体験などのアイデアを用意するというのも良いと思った。
- ・カワタンをやったことや、既存公共施設が老朽化していることから、統廃合でスリム化するという発想も大事だと思った。
- ・休日急患診療所を平日のみ利用の小中学校に移転する案や、すくらむ21は現時点での男女共同参画の状況を踏まえ、高津市民館に統合するなど、一度機能をリセットすることで持続的な施設活用の可能性が生まれると思う。
- ・あまり使われていないスペースをブレイキンに開放したり、カフェ利用したりすることから始めて、その先にキッズニア、マルシェ、カフェ、テレワークなどに広げて多世代が使えるようになると良いと思った。

2. モデル地域ごとの結果概要

(4) 麻生区モデル地域（柿生・麻生・王禅寺中央地域）

① 意見交換のテーマ及びエリア設定

起点施設について周辺地域の**魅力的な将来像**や、**起点施設にあつたらいいなと思う機能**等について意見交換していただきました。
麻生区のモデル地域では、起点施設周辺の地形、鉄道・バス路線等を踏まえて**6つのエリア**を設定しました。



2. モデル地域ごとの結果概要

(4) 麻生区モデル地域（柿生・麻生・王禅寺中央地域）

② 意見交換のまとめ

エリアごとの意見交換でいただいた**主な意見・アイデア**は以下のとおりです。

赤字：モデル4地域で共通して見えてきた意見・アイデア
青字：各地域で特徴的な意見・アイデア

エリア名	起点施設	エリアの魅力的な将来像	あったらいいなと思う機能
ア 新百合ヶ丘駅北	・麻生区役所 ・麻生市民館 ・麻生図書館 ・麻生休日急患診療所	・買い物や公共施設に行きやすいウォークアブルなまちで、 緑地や桜 も楽しめ、 多世代が交流 できる ・安心して集える 文化芸術 の活動拠点がつながら、 人もつながっている まち	・屋根や空中庭園があるなど、 目的無く集まりやすい 市民の憩いの広場があるといい ・様々な活動の場として、規模の大小を問わずに 気軽に使うことができる ・調理室を使いやすく、 地元農産物 を活かして子どもも男性も含め 交流 できる ・ 活動を知らない、色々な機能があるのにもったいない という意見があることから、イベントや活動が外から見えるようにする
イ 新百合ヶ丘駅南	・麻生スポーツセンター ・地域子育て支援センター みなみゆりがおか	・ 子育て世代 に優しく、若い人や外国人など様々な人が集まって 交流 し活気があるまち ・ 環境 と生活が調和し、若い人が移住したくなるまち	・多様な情報が得られ 子育て層も高齢者も若い人も 使える 多機能 があり、自然と 集う場 にしたい ・「長寿日本一」ではなく、「 健康寿命日本一 」を目指し、 シニアが元気 に暮らせるようにする ・住宅地でも気兼ねなく音を出せるように、 音楽や楽器 を練習する場をつくる ・公共的なサービスが 集約 されていると、知らないサービスも知ることができて便利
ウ 柿生駅	・麻生区役所柿生分庁舎	・レトロ感と 自然 が魅力的なまち。外からも人が訪れ、終のすみか。まちの人々や 多世代が交流 できる拠点がある ・ 自然が豊か で公園や施設などで 交流 ができる公共交通で移動しやすいまち	・ 今は入りづらい ため、明るくオープンで、無料開放されたスペースになるといい ・ 野菜販売 、キッチンスペース、休憩所、 子ども食堂 などで、 多世代 が使えるといい ・柿生地域の 自然 や 郷土資料 を紹介するビジターセンターとしての役割を持たせる
エ 白山	・白山中学校跡地施設 ・白山こども文化センター ・白山老人いこいの家	・ 若い人も高齢者 も住みやすいと思える静かで落ち着いたまち ・ 自然とアート をめぐる 白山プロムナードづくりで人々にぎわう	・日本映画大学、昭和音楽大学等と連携し 映像 などでまち紹介や、 映画祭 、 音楽祭 に広場を開放する ・ 予約の仕組みを見直す など、地域で祭りや防災訓練、その他健康づくりの運動のためなど、 誰でも利用 できるようにする ・こども文化センターやわくわくプラザで シニアボランティアの活用
オ 王禅寺東・虹ヶ丘	・王禅寺こども文化センター ・虹ヶ丘こども文化センター ・王禅寺老人いこいの家	・ シニアと子ども が接することができる生活拠点と 自然にふれられる場 が両方あり、エリア内の回遊性UPで、皆が住みたくなるまち ・公園を中心に 緑ゆたか なにぎわいもある 多世代 がつながる シニア にも住みやすいまち	・近くの 農家と連携 するなど、 地域の野菜 が食べられるレストランで 多世代交流 ・ 世代を分けずに交流 できるように、イベントや販売、催しの場がある ・ 高齢者同士が生涯学習で交流 できる ・民間の施設に公共施設が入って 複合化 を
カ 岡上	・麻生市民館岡上分館	・ 農や緑 を最大限に活かして、地域の 交流 、 子育て 、産業につなげていく	・ 地域の文化財の紹介 を行うなど、岡上地域を知るためのビジターセンター的機能を ・ 農作物 の直売所をつくる ・岡上こども文化センターで 食育の取組み や、 子ども食堂 などやってみる

主な意見・アイデアのキーワードとしては・・・

・将来像から見えてきた公共施設の機能や使い方等に関すること

⇒ **「多世代交流」**、**「子育て支援の充実」**、**「文化・芸術活動」**、**「利用制限の見直し」**、**「使われていない時間帯の有効活用」**
「入りづらい」、**「知られていない」**、**「情報発信・PRが大事」**、**「機能集約や移転なども有効」**、**「農や自然」**、**「元気なシニアの交流」**

2. モデル地域ごとの結果概要

(4) 麻生区モデル地域（柿生・麻生・王禅寺中央地域）

③ エリアごとのまとめ

【ア 新百合ヶ丘駅北エリア】 起点施設：麻生区役所、麻生市民館、麻生図書館、麻生休日急患診療所

エリアの魅力的な将来像

- ・買い物や公共施設に行きやすいウォーカブルなまちで、**緑地や桜**も楽しめ、**多世代が交流**できる
- ・安心して集える**文化芸術**の活動拠点がつながり、**人もつながっている**まち

あったらいいなと思う機能（主な意見）

○麻生区役所

- ・屋根や空中庭園があるなど、**目的無く集まりやすい**市民の憩いの広場があるといい

○麻生市民館

- ・様々な活動の場として、規模の大小を問わずに**気軽に使うことができる**
- ・調理室を使いやすく、**地元農産物**を活かして子どもも男性も含め**交流**できる

○麻生図書館

- ・電子書籍など利用しやすくして若い人の利用を増やす

○麻生休日急患診療所

- ・健康に関する講座を実施して人が**つながる**ような取組をする

○相手方施設

- ・電車からも見える麻生小学校の校庭でイベントを開催

○特定の施設に限らない意見

- ・若い人がチャレンジできる屋台村をつくる
- ・プロムナード感覚で公共施設にアクセスできる。周囲には個性的なお店もあって回遊が楽しいまち
- ・**活動を知らない、色々な機能があるのにもったいない**という意見があることから、イベントや活動が外から見えるようにする

赤字：モデル4地域で共通して見えてきた意見・アイデア
青字：各地域で特徴的な意見・アイデア

【ワークシート】



1グループ



2グループ

【ワークシート】



1グループ



2グループ

第5回では、追加で以下のような感想をいただきました。

- ・イベントが多くなるなど北側に行く機会が増えると良い
- ・駐車場不足なので施設が連携して利用しやすくしてほしい
- ・音大と連携してコンサートや教室が開かれると良い
- ・麻生ブランドの食事ができるレストランが見えるところがあると良い

2. モデル地域ごとの結果概要

(4) 麻生区モデル地域（柿生・麻生・王禅寺中央地域）

③ エリアごとのまとめ

赤字：モデル4地域で共通して見えてきた意見・アイデア
青字：各地域で特徴的な意見・アイデア

【イ 新百合ヶ丘駅南エリア】 起点施設：麻生スポーツセンター、地域子育て支援センターみなみゆりがおか

エリアの魅力的な将来像

- ・ **子育て世代**に優しく、若い人や外国人など様々な人が集まって**交流**し活気があるまち
- ・ **環境**と生活が調和し、若い人が移住したくなるまち。急速な開発による環境の乱れが気になる

あったらいいなと思う機能（主な意見）

○麻生スポーツセンター

- ・ 多様な情報が得られ**子育て層も高齢者も若い人も**使える**多機能**があり、自然と**集う場**にしたい
- ・ 無料利用日を更に設けて新しい利用者を増やす
- ・ 「長寿日本一」ではなく、「**健康寿命日本一**」を目指し、**シニアが元気**に暮らせるようにする
- ・ 住宅地でも気兼ねなく音を出せるように、**音楽や楽器**を練習する場をつくる

○地域子育て支援センターみなみゆりがおか

- ・ 子どもが利用しやすい木造平屋の建物を活かす

○相手方施設

- ・ 麻生こども文化センターなど、**子ども食堂**を実施している施設と連携する

○特定の施設に限らない意見

- ・ **子育て世代**へのボランティア機会を発信する
- ・ 公共的なサービスが**集約**されていると、知らないサービスも知ることができて便利

【ワークシート】



3グループ



4グループ

【ワークシート】



3グループ



4グループ

第5回では、追加で以下のような感想をいただきました。

- ・ 音楽のまちとして、近くにある昭和音楽大学とコラボレーションや連携して、子連れでも参加できるイベントがあると良い
- ・ アクセスやPRなど、スポーツセンターが様々な取り組みを行い利用がもっと便利になると良い

2. モデル地域ごとの結果概要

(4) 麻生区モデル地域（柿生・麻生・王禅寺中央地域）

③ エリアごとのまとめ

【ウ 柿生駅エリア】 起点施設：麻生区役所柿生分庁舎

エリアの魅力的な将来像

- ・レトロ感と**自然**が魅力的なまち。外からも人が訪れ、終のすみか。まちの人々や**多世代が交流**できる拠点がある
- ・**自然が豊か**で公園や施設などで**交流**ができる公共交通で移動しやすいまち

あったらいいなと思う機能（主な意見）

- 麻生区役所柿生分庁舎
 - ・**今は入りづらい**ため、明るくオープンで、無料開放されたスペースになるといい
 - ・おしゃべりができるカフェ
 - ・**野菜販売**、キッチンスペース、休憩所、**子ども食堂**などで、**多世代**が使えるといい
 - ・柿生地域の**自然**や**郷土資料**を紹介するビジターセンターとしての役割を持たせる
 - ・**子ども連れ**のママが**交流**して遊べる
 - ・デジタル化等の世の中の変化に対応する相談窓口
- 相手方施設
 - ・こども文化センターが遠くて通いにくいいため、絵本やおもちゃで遊んだり、卓球ができる**機能**が柿生分庁舎にあるといい
- 特定の施設に限らない意見
 - ・地域の施設間が離れているため、コミュニティバスを活用。散策ルートを作りバスで巡れるようにする
 - ・子ども施設を充実させたい

赤字：モデル4地域で共通して見えてきた意見・アイデア
青字：各地域で特徴的な意見・アイデア

【ワークシート】



5グループ



6グループ

【ワークシート】



5グループ



6グループ

第5回では、追加で以下のような感想をいただきました。

- ・施設へのアクセスのためには交通手段の検討が必要
- ・民間施設も含め地域では多世代交流も行われている

2. モデル地域ごとの結果概要

(4) 麻生区モデル地域（柿生・麻生・王禅寺中央地域）

③ エリアごとのまとめ

【エ 白山エリア】 起点施設：白山中学校跡地施設、白山こども文化センター、白山老人いこいの家

エリアの魅力的な将来像

- ・ **若い人も高齢者も**住みやすいと思える静かで落ち着いたまち
- ・ **自然とアート**をめぐる 白山プロムナードづくりで人でにぎわう

あったらいいなと思う機能（主な意見）

○白山中学校跡地施設

- ・ 日本映画大学、昭和音楽大学等と連携し**映像**などでまち紹介や、**映画祭**、**音楽祭**に広場を開放する
- ・ **予約の仕組みを見直す**など、地域で祭りや防災訓練、その他健康づくりの運動のためなど、**誰でも利用**できるようにする

○白山こども文化センター

- ・ **子ども食堂**で、高齢者も含めた**多世代交流**
- ・ 名前を変えたり、**利用制限をなくしたり**することで、地域の人が自由に使える
- ・ 日本映画大学とコラボした子ども施設にする

○白山老人いこいの家

- ・ 名前を変えたり、**利用制限をなくしたり**することで、地域の人が自由に使える
- ・ 給水拠点

○相手方施設

- ・ こども文化センターやわくわくプラザで**シニアボランティアの活用**

○特定の施設に限らない意見

- ・ 白山プロムナードマップづくり
- ・ 若い世代が住みやすくするため保育施設の充実

赤字：モデル4地域で共通して見えてきた意見・アイデア
青字：各地域で特徴的な意見・アイデア

【ワークシート】



1グループ



2グループ

【ワークシート】



1グループ



2グループ

第5回では、追加で以下のような感想をいただきました。

- ・ 民間で運営したりして、誰でも使える行きたいと思える場所にする
- ・ 白山中学校跡地でイベントを行って、まちに活気を出す
- ・ 施設の名前を変えてもっと利用しやすくする

2. モデル地域ごとの結果概要

(4) 麻生区モデル地域（柿生・麻生・王禅寺中央地域）

③ エリアごとのまとめ

赤字：モデル4地域で共通して見えてきた意見・アイデア
青字：各地域で特徴的な意見・アイデア

【オ 王禅寺東・虹ヶ丘エリア】 起点施設：王禅寺こども文化センター、虹ヶ丘こども文化センター、王禅寺老人いこいの家

エリアの魅力的な将来像

- ・ **シニアと子ども**が接することができる生活拠点と**自然にふれられる場**が両方あり、エリア内の回遊性UPで、皆が住みたくなるまち
- ・ 公園を中心に**緑ゆたか**なにぎわいもある**多世代**がつながる**シニア**にも住みやすいまち

あったらいいなと思う機能（主な意見）

○王禅寺こども文化センター

- ・ 合築している老人いこいの家とも連携し、**利用者が使いやすい**ようになるように、送迎や運搬のための駐車場を確保する
- ・ **世代を分けずに交流**できるように、イベントや販売、催しの場がある

○虹ヶ丘こども文化センター

- ・ 地域特性を考え、老人いこいの家の**機能に変更**

○王禅寺老人いこいの家

- ・ 近くの**農家と連携**するなど、**地域の野菜**が食べられるレストランで**多世代交流**
- ・ **世代を分けずに交流**できるように、イベントや販売、催しの場がある
- ・ **高齢者同士が生涯学習で交流**できる
- ・ ボランティア活動などで利用できる広いキッチンがあるといい

○相手方施設

- ・ 虹ヶ丘小学校の広い校庭を活用

○特定の施設に限らない意見

- ・ わくわくプラザやこども文化センターにフリースクールの**機能**が入れられるといい
- ・ コミュニティバスなど便利な交通手段を
- ・ 民間の施設に公共施設が入って**複合化**を

【ワークシート】



3グループ



4グループ

【ワークシート】



3グループ



4グループ

第5回では、追加で以下のような感想をいただきました。

- ・ 施設名称変更で多世代が利用しやすい施設に
- ・ 多世代のコミュニケーションが生まれるデザインも重要

2. モデル地域ごとの結果概要

(4) 麻生区モデル地域（柿生・麻生・王禅寺中央地域）

③ エリアごとのまとめ

【カ 岡上エリア】 起点施設：麻生市民館岡上分館

エリアの魅力的な将来像

- ・ **農や緑**を最大限に活かして、地域の**交流**、**子育て**、産業につなげていく

あったらいいなと思う機能（主な意見）

○麻生市民館岡上分館

- ・ **地域の文化財の紹介**を行うなど、岡上地域を知るためのビジターセンタース機能
- ・ **農作物**の直売所をつくる
- ・ **里山**を活かしてトレイルランの事務局、起点に
- ・ 行政と連携した**就農相談**や支援の充実、マッチングの場がある
- ・ 地域で行っている防災教育の窓口を市民館が担う

○相手方施設

- ・ 岡上こども文化センターで**食育の取組み**や、**子ども食堂**などやってみる
- ・ 近隣の大学と連携し、岡上こども文化センターで大学生が勉強を教える仕組みを作る

○特定の施設に限らない意見

- ・ 子どもを預かる、食事を作るなど、ボランティアのマッチング機能や趣味の**交流**の場があると良い

第5回では、追加で以下のような感想を頂きました。

- ・ 岡上分館で農やみどりについて地域で話し合う場やPRをしていくのは良い
- ・ ウォーキングマップで地域の情報を発信していくと良い
- ・ 里山保全に地域の人材を増やし、育てることが必要

赤字：モデル4地域で共通して見えてきた意見・アイデア
青字：各地域で特徴的な意見・アイデア

【ワークシート】



5グループ

【ワークシート】



5グループ

2. モデル地域ごとの結果概要

(4) 麻生区モデル地域（柿生・麻生・王禅寺中央地域）

④ 第5回のトークセッションでいただいた参加者からのコメント（一部抜粋）

● トーク1 公共施設を取り巻く現状を踏まえ、気づいたこと・感じたこと

- ・公共施設の名称は利用者が限定されているイメージがある。
- ・公共施設によっては、時代とともに役割が終わったんだな、売っても良いのではないかという視点があると知った。地域の人が使わなくなったら、売ってしまってそのお金を他のサービス充実に活かす方法もあると知れた。
- ・ワークショップで知った、いつも素通りしていた高齢者の会館は、まだ常連さん向けのイメージなので、入れてはいないが、掲示板を散歩がてら見るようになった。駅からも近いのでエントランスが入りやすくなると良くなると思っている。
- ・民間が指定管理を受けている武雄市の図書館に行ってきた。図書館の中にカフェがあったりデザインが工夫されたりしていた。地方でも公共施設のあり方が見直されている。麻生区も若い人が集いやすいデザインにすると良い。

● トーク2 公共施設の今後を考える中で、気づいたこと・感じたこと

- ・柿生分館は入りにくいので、子育て世代が行きやすいようにロビーにちゃぶ台を置くなど、良い雰囲気になるといいと思った。
- ・老人いこいの家では、従来型の囲碁将棋だけではなく、みんなが使えるゲームがあると良いと思った。
- ・目的と場所が一緒であることが多いが、動きの中の通過点として公共施設の利用を考え、点で考えるのではなくて繋いで考える可能性が見えた。ネットワークでつなぐという事も大事。
- ・公共施設を回遊する際に立ち寄るポイントの一つとして考えるという視点もあり、回遊は学校と一緒に考えると良いと思う。例えば、芸術学科の作品を公共施設に展示してもらって回遊の機会にしても良いと思う。
- ・今までは公共施設を深く考えていなかったが、施設をいくら作っても維持運営が重要であることが分かった。施設の周りの人に協力してもらって、ソフトのこと（使い方）を十分に考えないといけない。年代が変わって来たり、住まう人が変わって来たりするので、対象やできることは絞り込みすぎた内容にはしない方が良いと思った。

第5回の様子

集合写真



川崎区



幸区



高津区



麻生区

3. ワークショップの結果概要

いただいた御意見のうち、主な意見・アイデアのキーワードを整理し、「意見交換から見てきたこと」を以下のとおりまとめました。

■ 主な意見・アイデアのキーワード

	川崎区モデル地域	幸区モデル地域	高津区モデル地域	麻生区モデル地域
共通の意見	「多世代交流」「子育て支援の充実」「文化・芸術活動」「利用制限の見直し」「使われていない時間帯の有効活用」 「入りづらい」「知られていない」「情報発信・PRが大事」「機能集約や移転なども有効」			
特徴的な意見	「安心安全」「防災」 「国際交流」	「企業との連携」 「多摩川を活用」	「防災」 「農や自然」	「農や自然」 「元気なシニアの交流」

意見交換から見てきたこと

1. 将来像から見てきた公共施設の機能等について、「多世代が交流できる」、「子育て支援が充実している」、「文化・芸術活動が活発」という意見を共通でいただきました。
⇒将来像の実現に向けた施設の機能として必要と思われるものは、多世代交流や子育て支援の場・文化芸術の活動の場など、多世代が様々な用途で活動できる場と考えられます。
2. また、地域ごとに見ていくと「国際交流」、「企業との連携」、「農や自然」など特徴的な意見をいただきました。
⇒地域特性を踏まえた検討を行うことも重要と考えられます。
3. 施設の使い方等について、「利用制限の見直し」、「使われていない時間帯の有効活用」という意見を共通でいただきました。
⇒施設によっては対象者の利用制限があることや、使われていない時間帯もあり、使い方に工夫の余地があると考えられます。
4. 施設に関する意見として、「入って良いのか分からず、入りづらい」、「機能や活動が知られていない」という意見が共通しており、また、「施設の情報発信をもっとして欲しい」、「PRが大事」という意見も共通していただきました。
⇒施設が入りづらい、知られていないなどの意見があるため、積極的な情報発信や施設を利用してもらう工夫などが求められていると考えられます。
5. ニーズに合った施設の実現や利便性が向上するための視点として、建替等のタイミングで「施設の機能集約や移転なども有効」という意見を共通していただきました。
⇒ニーズに合った施設等の実現に向けた取組として、施設の状況やタイミングによっては機能集約や移転の手法も考えられます。

- ・意見交換から見てきたことを視点として整理し、その視点を踏まえ、地域ごとの資産保有の最適化に向けた今後の取組を進めてまいります。
- ・ワークショップでいただいた御意見やアイデアについては、公共施設の使い方や機能のあり方の整理に向けた取組の参考としてまいります。

4. ワークショップ後の取組の主な流れ

モデル4地域において、令和5年度から「地域の公共施設の未来を考えるワークショップ」を各5回実施し、様々な御意見を頂きました。今後はワークショップで頂いた御意見やアイデアを参考としながら、取組方針を取りまとめていきます。

